

(11) 九 州



九州地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は高水準で推移している。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(―は上方に変更、―は下方に変更)。

前回からの主要変更点

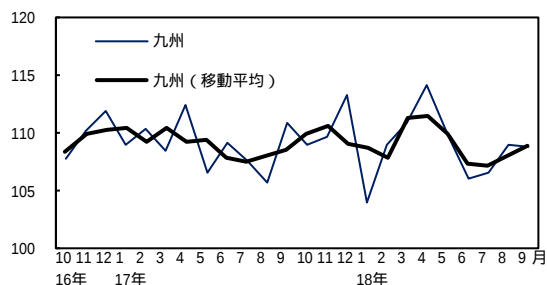
	前回(平成30年8月)	今回(平成30年11月)	
景況判断	回復	緩やかに回復	↓
個人消費	持ち直し	緩やかに持ち直し	↓
住宅建設	増加	減少	↓

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は高水準で推移している。

7 - 9月期には、輸送機械は、普通乗用車等が減少した。電子部品・デバイス、スマートフォン向け部品が増加した。はん用・生産用・業務用機械は、半導体製造装置等が減少した。食料品は、増加した。化学・石油石炭製品は、定期修理の反動等により増加した。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4 - 6 月期	7 - 9 月期	7月	8月	9月
輸送機械	24.5	6.9	▲5.1	2.8	5.3	▲5.3
電子部品・デバイス	12.3	10.0	2.9	1.8	5.7	▲4.1
はん用・生産用・業務用機械	11.2	▲6.5	▲4.8	▲6.4	▲3.3	6.7
食料品	9.6	▲1.3	0.6	▲0.6	4.1	▲1.8
化学・石油石炭製品	8.3	▲0.3	3.3	7.8	▲2.6	1.2
鉱工業	100.0	1.9	▲1.7	0.4	2.3	▲0.2

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 7 - 9月期、9月は速報値。

(備考) 1. 2010年=100、季節調整値。九州の最新月は速報値。

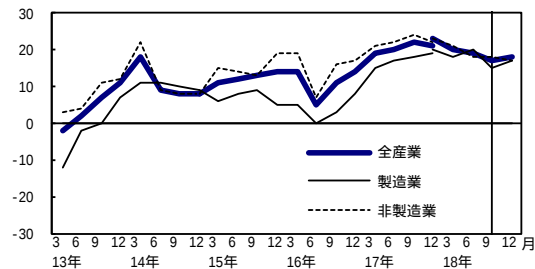
2. 九州の太線は中心3か月移動平均。直近月は2か月平均。

(11) 九州

(2) 日銀短観における業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

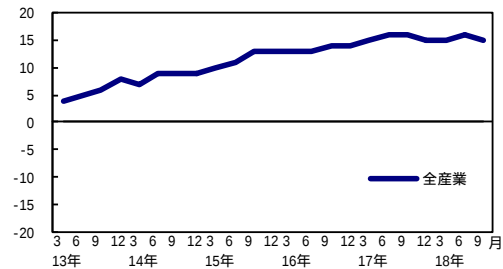
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



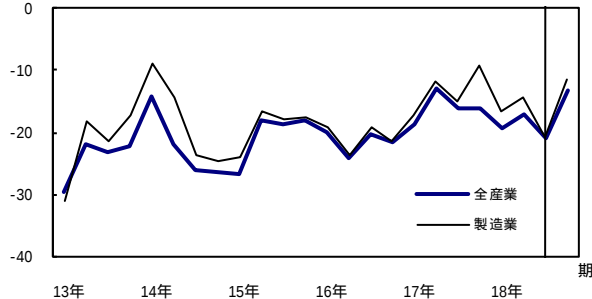
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。2018年12月は予測。
2014年12月及び2017年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
2014年12月及び2017年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



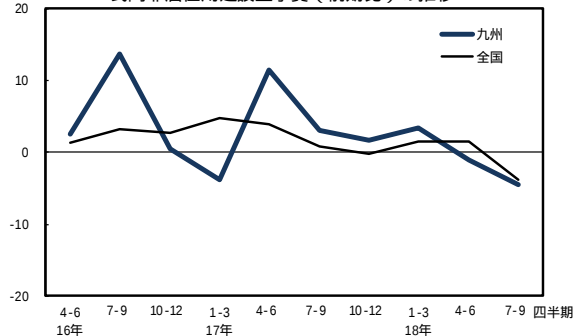
(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。2018年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「在庫量が多いものの、出荷量は減っている。したがって、滞留在庫が増える傾向にある。推察すると国内の需要量は飽和状態であり、見込んだほど受注がなかったと考えられる。景気が悪くなっているということではなく、良くもなっていないという状況である(輸送業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に減少している。

(%) 民間非居住用建設工事費(前期比)の推移



(備考)1. 季節調整値。

2. 2018年4-6月期以降は国土交通省「建設統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

(前年度比、%)

	2017年度実績	2018年度計画
全産業	24.0	22.5 (6.6)
製造業	29.2	33.9 (10.0)
非製造業	17.9	8.2 (1.6)

(備考)1.()は前回(6月)調査比修正率。

2. リース会計対応ベース。

3. 沖縄を含む。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに持ち直している。

地域別消費総合指数(RDEI(消費))

7月は前月比1.4%減、8月は同0.3%減、9月は同1.0%増となった。

百貨店・スーパー販売額

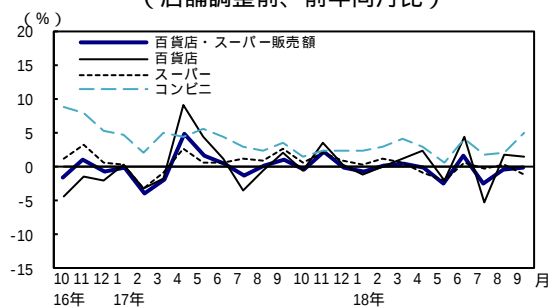
百貨店は、7月は、化粧品や高額品に動きがみられたものの、クリアランスセールの前倒しの影響に加えて天候要因により入店客数が伸びず、前年を下回った。8月は、猛暑によりUV関連商品の動きが良かったことに加え、化粧品、高額品の動きが引き続き良かったこと等から、前年を上回った。9月は、天候不順で入店客数が減少したものの、土日祝日が前年より2日多かったことや、高額品、化粧品の動きが引き続き好調だったこと等から、前年を上回った。

スーパーは、7-9月期は、化粧品や飲料食品に動きがみられたものの、天候要因等により前年を下回った。

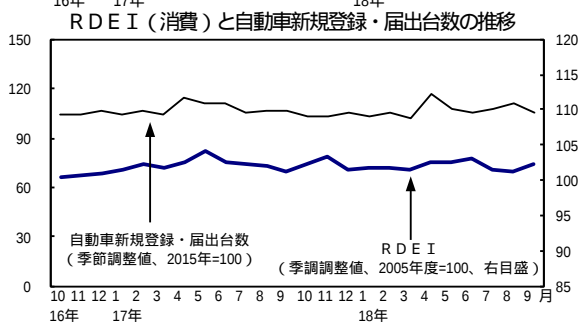
景気ウォッチャー調査(10月調査結果)[家計動向関連(現状)]

「10月は気温の変動も多く、季節商材の売行きが思わしくない。また、景気浮揚の要素もないため客の購入動向も悪く、売上は前年と比較して大きく低下している(コンビニ)」などの回答がみられた。

百貨店・スーパー販売額等
(店舗調整前、前年同月比)



	2018年7-9月	2018年7月	8月	9月
RDEI(消費*1)	▲1.0	▲1.4	▲0.3	1.0
百貨店・スーパー(*2)	▲1.0	▲2.4	▲0.4	▲0.0
百貨店(*3)	▲1.2	▲5.3	1.7	1.4
スーパー(*3)	▲0.4	▲0.4	0.2	▲1.2
コンビニ(*3)	2.9	1.8	2.1	5.1
乗用車(*4)	1.7	2.7	5.0	▲1.8
(季節調整値)(*4)	▲1.3	2.2	3.5	▲4.9



(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

・百貨店、スーパーは沖縄を含む経済産業省の九州の値。

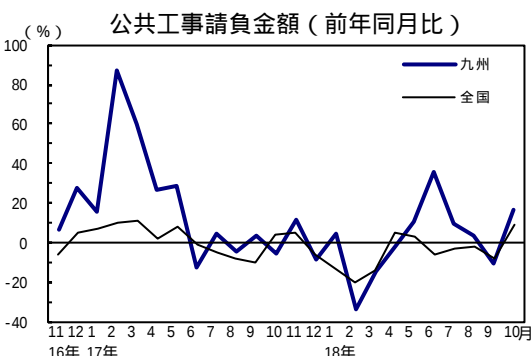
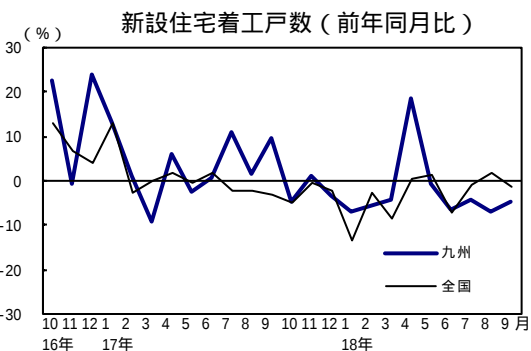
・コンビニは、経済産業省の九州・沖縄の値。

4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

(2) 住宅建設は前年に比べて減少している。

貸家、分譲が前年を下回ったことから、減少している。

(3) 公共投資は2018年度累計で見ると前年度を上回っている。

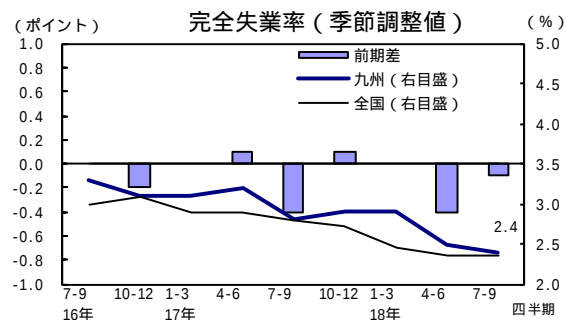
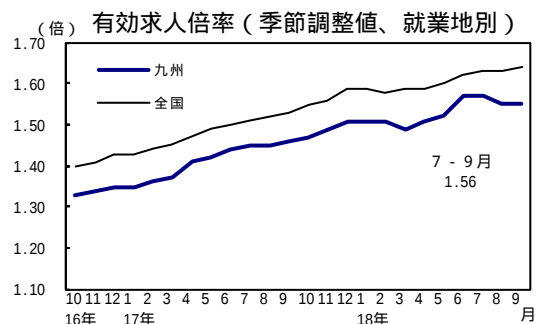


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を下回っている。



(備考) 内閣府にて季節調整。

景気ウォッチャー調査（10月調査結果）[雇用関連（現状）]

「引き続き求人数の増加が見られ、管内の有効求人倍率も高い水準で推移している（職業安定所）」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は前年に比べて件数、負債総額ともに大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	2017年 10-12月	2018年 1-3月	4-6月	7-9月	2018年10月
倒産件数 (前年比)	137 3.0	133 3.9	157 22.7	149 25.2	61 3.4
負債総額 (前年比)	205 51.8	188 ▲42.4	175 ▲33.6	315 176.2	78 37.6

